

祭光

755号

2024年7・8月
日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
<https://den-church.jp/>

自分は誰に救われるのか

詩編 一一〇編 一〜七節
マタイによる福音書 二二章四一〜四六節

牧師 高橋和人

主イエスの神殿でのファリサイ派との論争の締めくくりになります。ここからさらに主イエスは、はつきりと十字架への歩みを進めていきます。主イエスの言葉の背後にはいつも十字架に向かい、十字架を負われることがあります。主イエスが語られたことには十字架のことが下敷きになっています。

主イエスはファリサイ派にメシアのことを尋ねます。メシアは新約の原文ではキリストという言葉になっていきます。どちらも油を注がれた者ということですね。わたしたちはキリストの三職、三つの職務として、油を注いで聖別された。王、大祭司、預言者の三つの務めと教えられます。主イエスの働きを理解するためのものです。

主イエスの時代に、メシア待望は人々の思いの深いところに静かに浸透していました。特に、ローマの属国として抑圧された時代に

したので、神から遣わされた自分たちの国の解放者の登場が期待されていました。言行録には騒乱の指導者としてテウダやユダの名が出ています。人々の不満が一揆のような行動を起こさせたものです。そして、鎮圧されました。しかし、神からの真のメシアであれば、成功したはずだと考えられていました。

主イエスはメシアが「だれの子だろうか」と問いかけます。子はその血統と姿を受け継ぐ者です。ファリサイ派は即座に「ダビデの子。だと答えます。ダビデは神によってユダ・イスラエルの王として立てられ、イスラエルの栄光の時代を作り、その王権と繁栄の象徴でありました。同時に詩編のダビデの歌に見られる信仰姿勢が共感され、愛されています。

そこには羊飼いなる神への信頼、自分の犯した罪への悔い改め、真剣に神にへりくだるものとして受け止められました。神が特別に慈

しみ、目を注いだ人物です。

特にサムエル記のナタンの預言やイザヤ書の「エツサイの株」(二二章)、エレミヤ書には「ダビデのために正しい若枝を起こす」(二二章五節)とメシアはダビデの家に結び付けられました。人々はダビデのような、神との特別な関係にあるメシアを期待していました。当然旧約の専門家であるファリサイ派も同意していました。

ところが、主イエスはさらにマタイによる福音書二二章で「主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい、わたしがあなたの敵をあなたの足もとに屈服させるときまで」と。」を引用されて「どうしてダビデは、霊を受けて、メシアを主と呼んでいるのだろうか。」と聞かれます。

「このようにダビデがメシアを主と呼んでいるのであれば、どうしてメシアがダビデの子なのか。」と問いかけられます。ダビデがメシアを主と呼ぶ以上、メシアはダビデの子以上のお方だということです。

主イエスはダビデの子と告白されています。この福音書では「系図のはじめ」(一章一節)、「盲人のいやし」(九章二七節)、「カナンの女の娘のいやし」(一五章二二節)、「他にもあります。ペトロも「あなたはメシア、生ける神の子です」(一六章一六節)と告白しました。パウロの手紙にも「ダビデの子孫」と呼ばれています。

そのように新約聖書全体を通じて主イエスがダビデの子メシアであることははつきりさせられています。